

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市サンホーム
2	指定管理者	特定非営利活動法人 グループゆう
3	指定期間	平成29年4月1日から令和3年3月31日まで（4年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成30年度 2,424人（前年比 83%） ・平成29年度 2,919人（前年比 99%） ・平成28年度 2,943人（前年比122%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 61,406千円（60,123千円） ・その他市が負担した費用 4,218千円※（3,300千円） ※他施設と併せて設計委託した費用（745,200円）も計上している。 《収入》 ・使用料収入 29,374千円（30,490千円） ・その他収入 500千円※（0千円） ※他施設と併せて実施した設計委託に係る収入を計上している。
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成31年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施した。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解し運営にあっている。 また、卒園児の進路先への情報提供等を行ったり、卒園児も参加できる行事の開催や家族の学習会や交流会を行い、継続支援を行っている。	42/42
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理は協定書・仕様書に基づき適正に行われている。 法人全体で毎年年度当初に研修を行うなど個人情報保護の取組みを推進している。	24/24
III	施設・設備の維持管理	施設、設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	24/24
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 事業者独自での利用者アンケートを学期の節目や行事の都度実施し、運営に対し常に改善を心掛けている姿勢がうかがえる。	27/27
V	施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、課題と取組み・振り返り評価を行い利用者個々の発達に寄り添った支援を行っている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: center;">加点評価</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">—</td> </tr> </table>		加点評価	—
加点評価	—		

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人グループゆう）による自己評価》	
<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な療育環境に努め、大きな事故や苦情はなかった。 ・発達支援では、小集団支援に加え個別療育を実施し、得意なことや強み・弱み等の特性や家庭での養育の工夫等を保護者と共有したことで特性理解や子育ての助けになったという声を聴くことが出来た。また職員のアセスメント力の向上が見られた。作業療法士の専門的視点を取り入れたの椅子や食具の工夫、自立支援を念頭においた身体発達や生活習慣獲得の促進を重視した。 ・保護者支援では、「ことばを育む」「当事者の語り」「嘱託医講話」「感覚統合」等をテーマに、勉強会を開催し、前向きな子育てを支援した。保護者の語り合いにより入園当初の不安軽減や相互交流の深まりもみられた。またヨガや年2回の預かり保育、嘱託医の発達相談等の機会を設け、保護者のメンタルケアとリフレッシュを図った。 ・地域支援では、これまでの職員研修や地域研修の内容を体系化して地域支援セミナーを開催した結果、近隣保育所や幼稚園職員等の参加者に特性理解に繋がったと評価を頂き、地域の支援機関のすそ野の広がりに役立った。また地域支援事業において、のびすくや児童館への継続的な訪問や泉区家庭健康課の企画への参画で、施設間の関係構築や連携の土台づくりが推進できた。なお保育所長会議への参加により、次年度の子育て支援センターとの協働企画にも発展した。 ・療育環境の整備・管理では、飛び出し防止の鍵の設置や門とフェンスの間隙埋工事、平均台等の修理、感染性嘔吐の対応訓練等、安全面を強化した。また、近隣の盗難事件等を背景に不審者対応マニュアルの見直しや対応の再周知、近隣警察や郵便局への支援依頼を行った。なお業務の効率化においては、個別記録等の見直しと簡略化、業務手順やタイムテーブルの見直し、会議時間の短縮に努めた。また先進地視察を実施し、センター職員としての職員の視野の広がりや資質の向上に努めた。 	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>地域支援の一環として、地域との交流・連携促進を積極的に図り、地域の療育機関としての役割を果たすための取り組みに努めているほか、地域相談体制の強化に向けた近隣施設への訪問等の取り組みも実施している。</p> <p>保護者勉強会や卒園児支援を行うなど、利用児童だけではなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課